

2019年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	看護学群
学群(学部)長名	高橋和子

<p>1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p>					
①	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>「継続」 「事前・事後学修」について、講義内での説明や資料配布、課題提示を行うなど、実施を促す工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多く、改善が求められる。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>教員側は、事前・事後学修を促す周知や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。</td> </tr> </table>	課題	「継続」 「事前・事後学修」について、講義内での説明や資料配布、課題提示を行うなど、実施を促す工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多く、改善が求められる。	理由	教員側は、事前・事後学修を促す周知や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。
課題	「継続」 「事前・事後学修」について、講義内での説明や資料配布、課題提示を行うなど、実施を促す工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多く、改善が求められる。				
理由	教員側は、事前・事後学修を促す周知や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。				
②	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>科目運営について、講義室環境の不備や、必修科目では、学生数に対して講義室が狭いなどの状況により、効果的授業が展開できていない科目があり、環境改善が求められる。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>アクティブラーニングを取り入れた授業が推奨されているが、低学年になるほど、学生数が多くなり、100名を超える場合に、授業中に、グループで話し合いを行える広さの講義室に限られる。</td> </tr> </table>	課題	科目運営について、講義室環境の不備や、必修科目では、学生数に対して講義室が狭いなどの状況により、効果的授業が展開できていない科目があり、環境改善が求められる。	理由	アクティブラーニングを取り入れた授業が推奨されているが、低学年になるほど、学生数が多くなり、100名を超える場合に、授業中に、グループで話し合いを行える広さの講義室に限られる。
課題	科目運営について、講義室環境の不備や、必修科目では、学生数に対して講義室が狭いなどの状況により、効果的授業が展開できていない科目があり、環境改善が求められる。				
理由	アクティブラーニングを取り入れた授業が推奨されているが、低学年になるほど、学生数が多くなり、100名を超える場合に、授業中に、グループで話し合いを行える広さの講義室に限られる。				
③	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、成績評価の結果を照合しながら、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>到達目標に対する達成度を公平に、適切なレベルで評価する方法としてルーブリックによる評価を確立することで、科目による成績の偏り等、解消することが必要である。</td> </tr> </table>	課題	「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、成績評価の結果を照合しながら、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。	理由	到達目標に対する達成度を公平に、適切なレベルで評価する方法としてルーブリックによる評価を確立することで、科目による成績の偏り等、解消することが必要である。
課題	「継続」 学生の捉えている到達目標に対する到達度と、成績評価の結果を照合しながら、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。				
理由	到達目標に対する達成度を公平に、適切なレベルで評価する方法としてルーブリックによる評価を確立することで、科目による成績の偏り等、解消することが必要である。				
<p>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p>					
①	<ul style="list-style-type: none"> ・「継続」 事前・事後学修については、引き続き、必要な学修内容を具体的に示したり、資料配布や課題提示を行うなど、学修を促す工夫を継続する。また、促しのみならず、主体的な学修の習慣が身に付くよう、繰り返し学修に適した教材や学習環境を検討する。事前・事後学修の時間が確保できている科目において、どのような学修を行っているのか情報を共有し、FD等を通して、効果的な方策を検討する。 				
②	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数や授業内容にあった講義室の使用を考慮するとともに、期待する学修効果が想定される学修システム等の導入を検討する。また、令和4年度から、保健師助産師看護師学校指定規則の変更により、新カリキュラムによる教育が開始される。そのため、不具合があったり、改善することにより学修効果の向上が期待できる学修環境を把握し、修繕を行うことで、学習環境を整備する。 				
③	<ul style="list-style-type: none"> ・「継続」 全学年の科目でルーブリックを活用し、到達目標に対する評価の公平性と妥当性を確認し、FD等を通して、評価基準の明確化を図ることで、ルーブリックの精度を上げる。 				

<p>2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・事例について自分たちが立案した看護計画でロールプレイを行い、それを撮影した動画を用いて全体でデブリーフィングを行うというプログラムを実施した。学生の主体性や創造性を発揮する良い機会となった。 	
<p>2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員会議や他の学群の会議等で紹介し、情報を共有する。 ・看護学群のFD等を通して、学修意欲の向上につながる、事前・事後学修においても活用できる教材の作成事例、これまであまり用いられていなかった学修システム等の活用事例等を共有し、新たな学修方法、学修スタイルの導入を図る。 	